



## 内田 勇 議員

# 幸福度アップの町を

### 町長 住んで幸せな奥出雲になるよう取り組む



**問** 幸福度指数がどこよりも高い豊かな町をつくるために持続可能な地域づくりに向けて、支え合い、助け合う自治会組織の重要性と今後の状況は。

**答** 限界集落の定義は、65歳以上の高齢化率が50%を超え、世帯数が20世帯未満の集落をいい、県内には453集落、町内は6自治会が限界集落です。

**問** 現在、少子高齢化や単身世帯の急増で地域が大きく変わる中で、孤立した人々をつなぐ支え合いが求められている。自治会や集落での研修旅行や、耕作放棄地解消に努

力する自治会、集落への支援策を伺う。

**答** 平成22年度からふるさとづくり交付金を制度化していますが、今後各地区での議論の中で要望があれば支援を検討する。

**問** 核家族化が進む中で、少子高齢化対策として有効な2世代、3世代が隣で居住できるような住宅環境への支援をし、孫の顔を見て暮らせるような生活で幸福度アップにつなげては。

**答** 孫の顔を見て生活できるのは、人生最大の喜び、幸せであるといわれ、2世代、3世代世帯がふえることを期待しますが、住宅支援と個人の財産にかかわることであり、住んで幸せな奥出雲になるよう、皆さんの声を聞きながら取り組みたい。

**問** 政策によって少子化に歯止めをかけることができるので、さらなる充実と、結婚祝い金制度の創設を。

**答** 晩婚化、非婚化が進んでおり、プライダルサポートおくいずもや、やらい奥出雲等の婚活イ

ベント活動を支援してまわりたい。

**問** 奥出雲町の伝統文化、芸術振興の支援について、仁多乃炎太鼓あるいは神代神楽、民謡クラブや音楽グループなど多数のグループが活動されています。文化芸術振興条例を制定し、産業振興、観光教育、福祉など幅広い観点から支援と文化協会の活動について。

**答** 文化協会には伝統芸能、美術、文芸、音楽をはじめ93団体、約1千800名余の方が活動されており、町内の文化芸術活動は県下でも極めて高い水準にあり、支援についても考えていきたい。

**問** 東日本大震災で防災、減災への関心が高まっており、依然として厳しい経済情勢の中で町内での雇用を守り、経済の循環を図り、景気の下支えと定住対策にもつなげる奥出雲版ニューディール政策で、老朽化した社会資本、インフラの再整備と耐用年数と改修計画は。

**答** 橋梁の平均寿命は60年といわれ耐用年数が来

ているものも数多くあり、平成21年度には橋梁の点検調査をやり、長寿命化修繕計画を策定して国の補助事業等の有利な財源確保を図りながら進めていきたい。

**問** 森林整備並びに山林の地籍調査は、林業再生と再生可能エネルギーを活用する上で重要であり、雇用創出のためにもグリーンニューディール政策として取り組みを。

**答** 今年度は玉峰山荘と佐白の温泉施設にチップボイラーを導入し、山に入ってチップ化する取り組みも進めたい。

山林の地籍調査の対象面積は約34km<sup>2</sup>で、平成23年度末で113km<sup>2</sup>を実施し、進捗率は32・8%である。

**問** 奥出雲町は県内有数の豪雪地域でありこの雪を活用し、雪祭りの開催等で冬の観光客誘致や、にぎわい創出を。

**答** 日本海側は、山陰も含めて冬期間雪に閉ざされるため人の出入りが極端に落ちるが、雪を生かした取り組みを進めていきたい。